

奈良公園観光地域活性化総合特区 [指定：平成25年9月、認定：平成26年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.3 + 3.7) / 2 = 4.0$

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	奈良市の観光入込客数の増加	103%	5
2	奈良市の宿泊者数の増加	89%	4
3	奈良市の観光消費額の増加	92%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 2 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4.3$

4.3

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.7

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3.5 + 4.0 + 4.3) / 3 = 3.9$

3.9

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

- ・特区事業を含め、地域独自の取り組みも宿泊施設不足の解消や観光資源の質的向上に向けて適切な方向性を持って行われている。
- ・旧奈良監獄を活用したホテル整備といったユニークベニュー開発に行政自らが力を入れている取組は評価される。
- ・地域通訳案内士のガイド実績が72人という数値は物足りない。ガイド利用の促進を図るために、ガイドツアーの企画工夫、旅行会社とのマッチング等に取り組んでいただきたい。そうした取組の進展を測る上でも、ガイドの稼働状況を取組指標として設定する必要がある。
- ・観光消費額の向上については、総額だけでなく一人当たりの消費単価の向上も視野に入れて取り組むことを期待する。
- ・日本を代表する観光都市である奈良市の場合には、外国人訪日客についての方針や具体的な施策があっても良い。
- ・特区の目標である奈良市の観光入込客数の増加と施策の関係が不明確である。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.0+3.9+4.0 \times 2) \div 4 = 4.0$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。